

短歌をつくらう

国語力・読解力アップ修業素材

【短歌を作ろう】国語力アップ修業素材

(趣旨)

この教材は、国語における読解問題のうち、特に小説や物語文で登場人物の心情や場面の展開、作者の意図などを捉えることが難しいと感じている方のため作成したものです。

情景や気持ちの奥行き・背景まで感じ取って、自分なりに想像(創造)できる力の養成を意図しています。

🌸 短歌(たんか)について

短歌は、日本の伝統的な定型詩(ていけいし)のひとつで、**五・七・五・七・七**の合計三十一音からできています。

短い言葉の中に、自分の感じたことや風景、気持ちなどをギュッと詰めこむ詩です。

・リズムの形(音の数)：

5音+7音+5音+7音+7音(=31音)

たとえば、こんな短歌があります。

春すぎて 夏来にけらし 白たへの 衣ほすてふ あまの香具山 (持統天皇)

これは「春が終わって、夏が来たようだ。真っ白な衣が天の香具山に干してあるらしい。」という風景を、たった31音で表現したものです。

■ どんな内容を書けばいいの？

短歌には「テーマの決まり」はありません。

・自分の気持ち

- ・ 日常で見つけた何か
- ・ 風景や季節
- ・ 思い出や願い

……など、なんでも短歌になります。



コツは、「自分の目で見て、心で感じたこと」を言葉にすること。

■ 俳句とのちがいは？

	俳句	短歌
音の数	十七音(5・7・5)	三十一音(5・7・5・7・7)
季語	必ず使うのが基本	あってもなくてもOK
表現の自由さ	すっきり簡潔にまとめる	自由に感情や思いをこめやすい
例	春の風 制服の すそ ふわり揺 れ	なつかしき 友 の笑顔を 思い 出す バスの窓 から 夕焼けを 見る

■ こんなときに短歌をつくってみよう！

- ・ 心が動いたとき（うれしい、悲しい、びっくり、感動……）
- ・ 美しいものや不思議なものを見たとき

- 何かを言葉にしたいけど、うまく説明できないとき
そんなときこそ、短歌はあなたの「ことば」になります。

■ 短歌づくりのポイント

- 音の数に気をつけよう (5・7・5・7・7)
- 五感 (見た・聞いた・におった・さわった・味わった) を使うと◎
- 比喩 (たとえ) や体言止め (名詞で終わる言い方) も効果的

比喩..

眠れぬ夜 心はまるで 風船のよう ふわりと浮いて どこへも行けず

体言止め..

花びらが ふと手に落ちる 春の午後 返事はまだか 空の青さよ

- 最後まで「自分の言葉」で書いてみよう

それでは、次のページから実作開始！👉

友人やお家の方と一緒に取り組んでみるのも、お互いどんな言葉にどういうイメージを持っているかが見えて楽しいかもしれませんよ。

もちろん、じっくりと自分の言葉に向き合うのもすばらしいです。

【実作欄】

・どんな題材にするか

・思いつく言葉や単語たち

・下書き

・本書き！

・短歌に込めた気持ち、情景、制作した時の状況、感覚など

・実作後の感想

(最後に)

お疲れさまでした。

「言葉を自由に使っていいよ」と言われると、かえって困ってしまうこともありますよね。

ただ、それがまさに私たちが自分自身に当てはめている「型」ともいえます。文章を読んだり問題を解いたりするうえで、一定の型を理解して活用できるよう身に着けておくことは役立ちます。けれど、それに依拠しすぎると、自分なりの自然な感じ方を言葉で表すことがニガテになってしまう場合があります。

この素材は小説や物語文の読み取りに資するためと考えて作成しましたが、評論文・論説文に対して有効だった読み方が、小説文ではなかなかうまく使えないということもよくありますね。そんなとき、意外にも私たちが素直に感じる印象や受け止めこそがピッタリと作者の意図を捉えている、なんていうことも多々あるのです。ですから、今回の短歌実作を通じて、皆さんがもっと自分自身の感じ方を深め、自然に自分の言葉を生み出していくきっかけを見出してもらえたなら、とても嬉しく思います。

その感覚が、小説の読解、ひいては普段の生活での自分や他者との関わり方などなどにも、もしかしたら何か変化をもたらすかもしれませんね。

濛日荘